

心理学類

College of Psychology

- 学士（心理学）
- Bachelor of Arts in Psychology

人材養成目的 / Program Educational Objectives

人間のこころと行動に関する幅広い興味や関心を基盤とし、それらを科学的・実証的に分析し理解する姿勢を育みます。そして、専門的な知識や技能を備え、実践的な課題に主体的または他者と協同して創造的に取り組む力を養い、国際的に通用する知性、人間性、そして柔軟性と逞しさを兼ね備えた人材の育成を目指します。

養成する人材像	<p>「人材養成目的」に掲げた人材は、「人間のこころと行動に対する幅広い関心を土台に、科学的かつ実証的に対象を分析し理解する姿勢」を身に着け、「保健医療・福祉」、「教育」、「司法・矯正」、「産業・労働」、「国際的・多文化的環境」の方面で、社会の中で生じる多様かつ複雑な人間の行動の課題に対し、心理学的知見と実証的アプローチをもって取り組み、個人や集団の心理的支援とケア、エビデンスに基づいた介入やプログラムの設計・実施、社会問題に対する多角的な分析と解決策の提案、他者との協働による創造的な問題解決と価値創出などの貢献が可能です。</p>
卒業後の進路	<p>科学的根拠に基づく「人間理解」と、問題解決・協働・コミュニケーションの力を活かし、多様な領域で活躍できる人材の育成を想定しています。</p> <p>心理学の専門性を活かす領域</p> <ul style="list-style-type: none"> - 公認心理師や臨床心理士等の心理専門職への進学（大学院進学を含む） - 医療機関・教育現場・福祉施設・自治体等での心理支援業務 - 司法・矯正領域（家庭裁判所調査官補、矯正・保護施設職員等） - 産業・組織心理領域（人事・労務、働き方支援、メンタルヘルス対策等） <p>データ分析・調査設計・研究職</p> <ul style="list-style-type: none"> - 民間企業の調査部門、マーケティングリサーチ、ユーザーリサーチ - 行動データ分析、UXリサーチ、製品開発における心理データの活用 - シンクタンク・研究機関・行政機関での社会調査・政策立案補助 - 大学院進学による研究者（心理学・認知科学・行動科学など）への道 <p>教育・人材育成分野</p> <ul style="list-style-type: none"> - 学校教育（心理学の知識を活かした教育支援） - 大学・専門学校での教育職（大学院進学を前提） - 企業の研修・人材育成・キャリア支援に関わる業務 <p>コミュニケーション・企画・創造的業務</p> <ul style="list-style-type: none"> - 広報、広告、メディア、デザイン分野における「人間理解」を基盤とした企画 - NPO・国際機関等での社会課題解決プロジェクト - 市民活動・地域活性化・コミュニティ支援に関する業務

学位授与の方針 / Diploma Policy

筑波大学学士課程の教育目標に基づく知識・能力（汎用コンピテンス）、ならびに本学類の人材養成目的に基づく知識・能力（専門コンピテンス）を修得した者に、学士（心理学）の学位を授与します。

知識・能力（専門 コンピテンス）	1. 心理学 C1	心理学に関する専門的知識と心理学の方法論を活用して適切にデータを収集し、科学的に分析することができる。
	2. 心理学 C2	自己理解と他者理解に基づき、他者と協同して、課題解決を図ることができる。
	3. 心理学 C3	人間と社会の多様な現象を実証的に探求し、問題に対処していく実践的な志向性が身についている。
	4. 心理学 C4	国際社会における多様性と多文化共生について心理学的視点から理解し、相互互恵的関係を形成できるコミュニケーション能力を備えている。
学修成果の評価に 関する方針	<p>学修成果の集大成として卒業研究を重視し、構想発表・中間発表、卒業論文および最終発表を通じて、学位授与方針に基づく学修成果を評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 卒業論文は、学類担当教員 3 名による査読を通じて、学修成果の達成状況を評価します。 - 領域ごとに実施される 3 回の公開発表会では、口頭による概要説明と質疑応答を基に、学修成果の達成状況を当該領域の教員で評価します。 - これらの結果を総合的に判断し、学修成果の最終的な評価を行います。 	

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

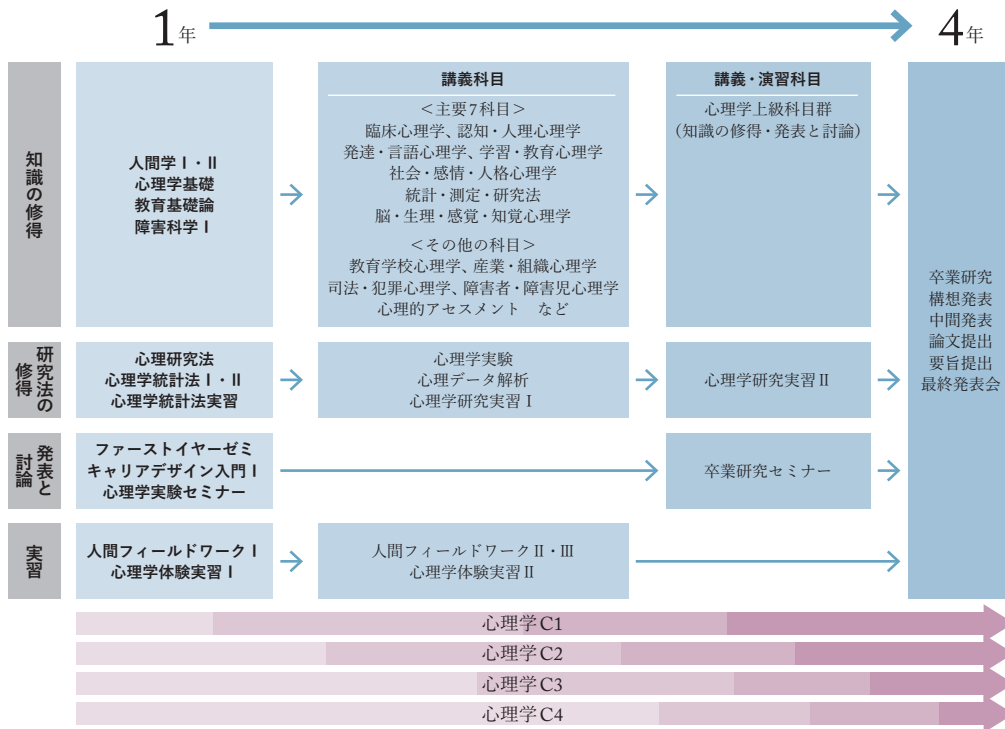
学士（心理学）に係る学修成果を身につけるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成します。

教育課程の 編成方針	<p>総合的な方針</p> <p>授業科目を心理学に関する知識の獲得、研究方法の習得、発表と討論、実習という4カテゴリに分類した上で、心理学の代表的な分野をすべて網羅した幅広い心理学教育を基礎から行い、卒業研究の完成へと導きます。各科目は、カリキュラムポリシーに基づいて、体系的に編成しています。</p> <p>順次性に関する方針</p> <p>以下のステップを踏んで基礎的分野から応用・実践的分野まで幅広い心理学教育を行います。図の矢印は想定されるコンピテンスの習得の程度を表し、色が濃いほど深い習得であることをイメージしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 1年次には、汎用智の醸成を目的とした科目や、専門智の涵養を担う他学類の専門科目を履修することで、総合智の形成を図ります。また、「心理学概論」および「心理学研究法」を通じて心理学の基本的知識を学び、「心理学統計法Ⅰ・Ⅱ」およびその実習を通じて心理学の基礎的分析技法を習得します。これにより、心理学C1・C2を培います。 - 2年次には、基幹となる専門科目群を幅広く学修し、心理学の専門知識の深化をはかります。「心理学実験」では基礎的研究技法を習得します。「心理学英語セミナー」では英語論文の講読を通して心理学研究の専門知識や方法論、心理学論文執筆の基本的なルールなどを習得します。「臨床心理学概論」では、心理学の知識や技能を活用して支援活動ができる力や、こころの健康に関する知識や情報を他者に提供する力を獲得します。これにより、心理学C2・C3を育成します。 - 3年次には、講義・演習科目を中心として心理学に関する高度な専門知識を修得します。また、「心理学研究実習Ⅰ」では十分な先行研究の理解に基づいて実験・調査研究を行い、データ収集能力と科学的分析能力、そして討論ができる能力を実践的に身につけます。3年次の終わりには「卒業研究セミナー」を履修し、本格的に卒業研究の準備を始めます。これにより、心理学C3・C4を養います。 - 4年次には、「卒業研究」を通じて、論理的思考力、洞察力、創造力を培います。特に、卒業論文の制作過程では、自らの研究を論理的に構築し、課題を深く探究する力を養います。また、最終発表会における発表や質疑応答を通じて、応答力や議論を深める能力を熟成させ、効果的なコミュニケーション力を身につけます。卒業研究完成に至る過程の中で、全ての専門コンピテンス（心理学C1～C4）の総合的な修得を目指します。
---------------	--

学修の方法
特色的な教育

- 心理学研究実習Ⅰ・Ⅱにより、教員や大学院生と共にグループワークとして実際の心理学研究を遂行する機会を通じて、心理学C1の修得を目指します。
- 専門導入科目「心理学概論」では、心理学C2の敷衍のため、世界的に評価の高いスタンダードな英文テキストの最新版を用いて心理学教育の国際基準に配慮した授業を行います。
- 心理学体験実習Ⅰにより、実際の心理学実験等に参加することで、研究参加者の立場を体験したり、座学に加えておおよび様々な実習を通して実践力・応用力を向上させ、知識の定着化・有用化の機会を与えることにより、心理学C3の養成に繋がります。
- 学修の集大成である卒業研究に向けて、3年次後半から卒業研究セミナーを通じて取り組みます。1教員あたり2名程度の学生を指導する少人数体制により、きめ細やかな指導を受けることができます。これらにより、心理学C1から心理学C4までの最終修得を目指します。

育成するコンピテンスとカリキュラムの構造



入学者受入れの方針 / Admission Policy

求める人材

人間のこころと行動に高い関心と興味を持ち、さらには、人間を深く理解しようとする探求心を持ち、自主的に学び、考え、科学的、論理的かつ実践的な問題解決能力を培う意欲のある人材を求めます。

入学者選抜方針	前期入試	広い基礎学力と外国語に加えて、国語、数学、地理歴史、公民、理科のいずれかの学力を筆記試験で総合的に評価します。
	後期入試	広い基礎学力を筆記試験で評価します。また、論述試験において、応答性、論理性等を評価します。
	推薦入試	一定レベルの学力を有し、人間のこころと行動について明確な目的意識を持つ人材で、心理学類の教育に適応性があるかどうかを筆記試験ならびに口述試験で評価します。また、人間のこころと行動について、旺盛な知的好奇心を持ち、それに関連する自主研究や部活動、社会活動等において優れた実績を有するかどうかを提出書類で評価します。
	国際バカロレア (IB) 特別入試	国際バカロレア試験において一定レベルの成績をおさめ、心理学類の学修に関して明確な目的意識を持ち、心理学の領域において国際的視野に基づく活動を志す人材であるのかを提出書類ならびに口述試験で評価します。
	外国学校経験者特別入試	海外生活での経験を活かしたグローバルな視点から、心理学類の学修に高い関心を有し、入学後の授業に適応できる理解力・思考力・日本語能力を有する人材であるのかを筆記試験ならびに口述試験で評価します。

学修支援体制 / Learning Support Framework

学修支援

- 学修状況の確認と支援：クラス担任は学生の履修科目や単位取得状況を把握し、進級や卒業に向けて学修が適切に進んでいるかを確認します。その上で、学生が自身の関心や目標に応じて効果的に学修を深められるよう、履修計画に関する個別の助言・指導を行います。
- 生活状況の確認と支援：学業面に加え、生活面での困りごとや悩みにも対応し、学生が安心して学修を継続できるよう支援体制を整えています。クラス担任や学生支援担当部署が連携し、必要に応じて適切なサポートを提供します。

学生支援の取組

<p>学生同士の交流機会</p>	<ul style="list-style-type: none"> - 1班 10名程度のグループで協力しながら実験を進める「心理学実験」では、データの収集や分析を通じて、心理学の研究手法を学ぶとともに、意見交換や役割分担を通じて学生同士の交流を深める機会にもなっています。 - 学生が2～3人のグループで社会で活躍する卒業生にインタビューを行う「心理学体験実習Ⅱ」では、キャリア形成に関する知見を深めるとともに、学生時代に取り組むべき学びについての理解を広げます。あわせて、卒業生が学生時代の学びを現在の仕事にどのように活かしているかを共有してもらい、そのやり取りを通じて、教育内容やカリキュラムの改善につなげることを目指しています。
<p>教員との交流機会</p>	<ul style="list-style-type: none"> - 1学年の定員50名を2クラスに分け、同一の教員が4年間クラス担任を務めます。担任教員は、学生一人ひとりの状況に配慮しながら、個別の相談に応じ、継続的な指導と支援を行っています。 - 3年次に開講される『心理学研究実習Ⅰ・Ⅱ』では、学生が1～2名の少人数グループで教員や大学院生から個別指導を受けながら、研究の進め方や実施方法を学びます。学生同士でアイデアを出し合い、議論しながら研究を進める過程は、学びを深めると同時に、互いの視点や考え方に触れる交流の機会にもなっています。こうした協働的な学びを通じて、主体的に研究に取り組む力や、心理学的探究に対する姿勢が育まれます。

教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

- 「授業評価委員会」は、授業評価アンケート等を通じて得られた学修成果の評価結果を体系的に集計・分析し、その結果に基づくフィードバックを行っています。これを踏まえ、「ファカルティ・ディベロップメント委員会（全教員）」において、当該学修成果の評価結果を組織的に検討し、教育方針および教育実践の妥当性について検証を行うとともに、必要に応じた改善方策の検討・策定を行っています。これらの取り組みにより、各授業の内容や教育方針の継続的な見直しと改善が促進され、教育の質の保証および向上が図られています。
- 「心理学体験実習Ⅱ」では、学生が卒業生（卒業後10年以内）にインタビューを行い、その後、卒業生からフィードバックを受けます。あわせて、卒業生が学生時代に学んだ内容が現在の実社会でどのように活かされているかについて意見を聴取し、それらの知見をもとに、カリキュラムの改善や発展につなげることを目的としています。
- 1929年に開学した東京文理科大学の第1期生以来の歴史をもつ同窓会組織「心友会」の会員を中心に、毎年、社会で活躍する卒業生から意見を聴取する機会を設けています。これにより、教育内容やカリキュラムの見直しに活かすためのフィードバックを得ています。